

図書館報

第61号

発行 社高等学校
編集 図書委員会

読書の秋

私の推薦書『竜馬がゆく』

校長 橋本 智穂

の秋」という考えが広まったとされていきます。

そんな読書に適した季節・秋を迎え、私が皆さんに紹介したいのは小説『竜馬がゆく』です。

『読書の秋』は、秋が読書に適した季節であることを意味します。秋は夏に比べて活動しやすいため、やる気や集中力を維持しやすいです。また、秋は夜が長く、静かに過ごす時間が増えます。そもそも『読書の秋』の由来は、中国の唐時代の詩人である韓愈（かんゆ）の詩にある「燈火（とうか）親しむべし」という言葉です。この言葉は、秋の夜は灯りをともして読書をするのにふさわしいという意味です。日本では、夏目漱石が1908年に発表した小説『三四郎』で韓愈の詩を引用したことがきっかけで、『読書

の秋』という考えが広まったとされています。

『竜馬がゆく』は、幕末の風雲児・坂本龍馬の生涯を描いた、司馬遼太郎による不朽の名作です。土佐の郷土から、日本の未来を左右する存在へと駆け上がっていった龍馬の波乱に満ちた人生が生き生きと描かれています。物語の魅力は、何と言っても主人公・坂本龍馬の人間的な魅力にあります。型破りな発想、驚くべき行動力、そして困難な状況でも失わない明るさ。彼の周りには自然と人が集まり、時代が動いていきます。

また、龍馬だけでなく、勝海舟や西郷隆盛、高杉晋作など、

幕末を彩った数々の魅力的な人物たちが登場し、物語に深みを与えています。彼らが国の未来を憂い、時に協力し、時にぶつかり合いながら、新しい時代を築こうとする姿は、読む者の心を熱くさせます。

この物語は、単なる過去の出来事を描いたものではありません。変化の時代を生き抜く知恵や、困難に立ち向かう勇氣、未来を切り拓く情熱など、現代に生きる私たちにも通じる普遍的なメッセージが込められています。読むたびに新たな発見と感動を与えてくれる『竜馬がゆく』を皆さんにも触れてほしいと思います。

龍馬の魅力は、何と言ってもその人間的な大きさと、人を惹きつける不思議な力でしょう。身分にこだわらず、分け隔てなく人と接し、常に新しいことに挑戦していく彼の姿は、読んでいて非常にワクワクします。また、薩長同盟の締結に見られるよう

に、敵対していた者同士を結びつけ、大きな目標に向かって導くリーダーシップは圧巻です。彼の柔軟な発想や、未来を見据える先見の明には、ただただ感嘆するばかりです。物語の舞台となる幕末は、まさに日本の歴史が大きく動いた時代です。外国の脅威、幕府の衰退、そして各地で高まる尊王攘夷の動き…。

そんな混乱とした時代の中、龍馬は日本各地を奔走し、様々な人々と出会い、語り合い、行動していきます。その過程で、彼は何度も危険な目に遭いながらも、決して諦めずに自分の信念貫き通します。彼のひたむきな姿を通して、当時の日本の息吹や、人々の熱意が伝わってくるようでした。司馬遼太郎の筆致は、史実に基づきながらも、まるで龍馬が目の前で生きているかのように感じさせる臨場感があります。ユーモアあふれる会話や、龍馬の心情描写も豊かで、ページをめくる手が止まりませんで

した。単なる歴史の出来事を追うだけでなく、龍馬という一人の人間を通して、時代の変化や人々の思いを感じることが出来る。それがこの小説の大きな魅力だと感じています。

『竜馬がゆく』を読み終えて、龍馬の生き様は、現代に生きる私たちにも多くの示唆を与えてくれると感じました。変化を恐れず、常に新しいことに挑戦する精神。既成概念にとらわれず、柔軟な発想で困難を乗り越えていく力。そして、何よりも、日本の未来を真剣に考え、行動した彼の情熱。現代社会もまた、変化の波が押し寄せる時代です。龍馬のように、強い信念を持ち、積極的に行動していくことの大切さを、この物語は教えてくれているのではないのでしょうか。『竜馬がゆく』は、単なる歴史上の人物の物語ではなく、時代を超えて私たちに勇氣と希望を与えてくれます。

教員からのメッセージ

読んだらきつと誰かと話したくなる♪ おすすめ図書

国語科 今井環

■『メトロに乗って』

浅田次郎 著



主人公の小沼真次は、女性用下着を売り歩くセールスマン。

父親の小沼佐吉は、世界的な「小沼グループ」の創立者である。真次は父親の、母や兄への傲慢な態度に反発し、高校卒業後、家を飛び出していった。ある晩、永田町駅の地下鉄の階段を上ると、そこには30年前の1964年の風景が広がっていた。そこで真次は、在りし日の兄を目撃する。その後、同僚の軽部みち子と共に、現実と過去を行き来しながら、兄の過去、そ

して、父の生きざまを目撃してゆく…。吉川英治文学新人賞受賞。

大学1年の時にテレビでミュージカル版を見て、「なんて面白いんだ！」と思い、読んだ一冊です。当時東京に住んでいたのですが、なじみのある地名が出てくると、「おつ」と嬉しくなりますよね♪歴史に翻弄される人間たち、そして、それぞれの選択。みなさんの目にはどう映るのでしょうか。

■『ペンドラゴン―死の商人』

D.J.マクヘイル 著



ボビー・ペンドラゴン、14歳。怠け者でバスケットと犬を愛する普通の少年だ。大好きなコートニーとキスをしたその日、変わり者の叔父プレスに地下

鉄の廃道へ連れて行かれ、異次元へワープしてしまう…。時空を越え、広大な異次元空間を縦横無尽に駆け回り、人類の未来を守るためボビーは目覚め、戦いに挑んでゆく。10の異次元を舞台にした壮大なタイム・トラベル・ファンタジー。

あらすじの通り、10の物語が想定されているものの、日本で出版されているのは4巻まで。社会人になつてから、書店で積みされているのを手にとったのははまりでした。分厚めで文字数も多いですが、展開の面白さに引き込まれ、一息に読み切ることが出来ます。それも、翻訳する人の腕次第だなと感じる作品です。出版業界の「せちがらさ」から、今も続きが出ていないと想像しますが、みなさんの中から翻訳家が生まれて、続きを翻訳していたら、今井に続きを読ませてくださると嬉しいです。(翻訳ものに不慣れな方へのア

ドバイス。ハリーポッターシリーズもそうですが、はじめの50ページさえクリアしてしまえば、その先はスツと読んでいけるはずです。そのきっかけにどうぞ。)

■『自由研究には向かない殺人』

ホリー・ジャクソン 著



イギリスの小さな町に住むピップは、大学受験の勉強と並行して“自由研究で得られる資格(E.P.Q.)”に取り組んでいた。題材は5年前の少女失踪事件。交際相手の少年が遺体で発見され、警察は彼が少女を殺害して自殺したと発表した。少年と親交があったピップは彼の無実を証明するため、自由研究を隠れ蓑に真相を探る。調査と推理で次々に判明

する新事実、二転三転する展開、そして驚きの結末。ひたむきな主人公の姿が胸を打つ、イギリスで大ベストセラーとなった謎解き青春ミステリー。

年に何冊かはおすすめ図書を増やしていきたいと、ジャンルを問わず読んでいる今井より、昨年のベストワンをお送りします。地域の図書館で借りたのですが、予約が回ってくるのに何ヶ月もかかりました。おまけに、一気読みするには内容が盛りだくさんで、借り直しをした作品です。主人公と、タッグを組む男の子がそれぞれに魅力的なので、キュンキュンしたい方、翻訳物が初めての方にもおすすめ。

心があたたかくなる
おすすめ絵本の紹介

家庭科 大坪 ゆき

皆さんは、どんな絵本が好きな子どもでしたか？思い出に残っている絵本や、成長してから気になった絵本、いろいろな絵本が皆さんの周りにはあると思います。本校の生活科学科の生徒は、保育検定の言語表現技術の内容で絵本の読み聞かせをしています。私は、受験する生徒だけでなく、いろいろな人に絵本に触れてほしいと思います。「絵本」は、子どもの心に寄り添い、想像力を育てる大切なツールです。子どもと大人と一緒に楽しめる絵本をポイントと共にご紹介します。将来の読み聞かせの練習にも、保育の理解を深める一歩になればと思います。

■『しろくまちゃんのほっとけーき』

わかやまけん 著



しろくまちゃんが、お母さんと一緒にホットケーキを作るお話。「ぱたあん」「ぷつぷつ」「ぺたん」など、調理の音がリズムよく繰り返され、子どもたちの耳をひきつけます。読み聞かせでは、声のトーンやテンポを工夫することで、まるで本当にホットケーキを焼いているような臨場感が生まれます。食べ物や親子のふれあいに興味を持ち始めた子どもにぴったりの一冊です。

■『だるまさんが』

かがくいひろし 著



「だるま・まさ・ん・が…」の繰り返りで展開する、ユーモアたっぷりの絵本。ページをめくるたびに、だるまさんが転んだ、のびたり、ふしゅーつとなり、子どもたちは思わず笑顔に。シンプルな言葉と動きのある絵が魅力で、乳児から楽しめます。読み聞かせでは、間の取り方や表情の工夫がポイントです。

■『てぶくろ』

ウクライナ民話

エウゲーニー・ミ・ラチヨフ 絵



雪の森に落ちたてぶくろに、次々と動物たちが入り込んでいくお話。繰り返しの展開と、動物たちの個性豊かなやりとりが楽しく、子どもたちの想像力をかきたてます。読み聞

かせでは、動物ごとに声を変えて演じると、より物語の世界に引き込まれます。冬の季節にもぴったりの一冊です。

■『わたしのワンピース』

にしまさかやこ 著



うさぎさんが白いワンピースを作って、空を歩いたり、花畑を通ったりするたびに、ワンピースの模様が変わっていく夢のようなお話。「ラララン ロロロン」というリズムのある言葉が心地よく、子どもたちの想像力を広げてくれます。読み聞かせでは、模様の変化に注目しながら、声に抑揚をつけると効果的です。

■『りんごかもしれない』

ヨシタケシンスケ 著



テーブルの上のりんごを見た男の子が、「これはりんごじゃないかもしれない」と想像をふくらませていくユーモアな絵本。「もしかして…」という視点が、子どもたちの発想力を刺激します。テンポよく展開しながら、子どもたちと一緒に「ほかに何かあるかな？」と問いかけるのも楽しい工夫です。

最後に、どの絵本も心の栄養となる重要な存在です。知っている絵本もあつたと思いますが、ぜひ絵本に触れる時間を作ってみてください。

本と会話する
英語科 鶴留 寛

皆さんは、本をどのような
目的で読みますか。

私は何かを調べたい時、学び
たい時、そして会話したい時に
読みます。「本と会話する」と
聞くと、「何を言っているんだ」
と言われそうですね。

私は、歴史や異文化を知る
ことが好きで、よく情報をリ
サーチします。その時に、「あ
れ、昔学んだ情報と違うぞ」と
なることが時々あります。そ
うなつたときに、その分野の最
新の情報が載っているような本を
読みます。すると、「へえ、今は
そうなっているんだ!」「なるほ
ど!」「これは、どういうことな
んだ?」と、気づくと会話して
いる(自分はそう思っている)と
なるわけです。

それでは、今から最近読んで
いる本をご紹介させていただきます。

『詳説世界史研究』

山川出版

高校生の頃、何よりも世界

史が好きだった私は、この本を
熟読していました。この本には
授業で扱う内容がさらに詳し
く掲載されているので、頭の中
で歴史内容を物語にして、深
く理解するよう努めていまし
た。現在出版されているものと、
私が高校生の頃に読んだもの
の内容が少し変化しており、
そこを知ることができるのも
面白いポイントの一つです。

■『最高のコーチは教えない。』

吉井 理人 著

コーチと聞くと、皆さんはどの
ようなイメージがあります
か。

私は現在、国際コーチング連
盟のコーチング資格を取得中
です。その資格は「教えるのでは
なく、自分で気づく」を重点
に、クライアントに「気づいても
らう」をテーマにしています。

この本では、最高のコーチは、
「教える」のではなく、相手に
「自分で考えさせる」こと、につ
いて書かれており、私の資格取
得の教科書にもなっておりま
す。著者の吉井理人さんは、プ
ロ野球のコーチで大谷翔平・ダ
ルビッシュ有・佐々木朗希選手
などを指導された方です。

吉井さんは、「なぜ、コーチが
教えてはいけないのか」
について、コーチと選手／部下
の経験・価値観・感覚は異な
る。単に自分のやってきたこと
を教えるだけでは通じない。ま
た、「上から押し付ける指導」
はモチベーションを奪う危険性

がある。と考えられています。
さらに、コーチングの基本理論
は、主体性(選手／部下本人)
が中心。自分で課題を見つけ
させ、自分で考えさせる。そし
て、専門的な知識や技術を伝
える「指導行動」と、「考えさ
せるコーチング行動」とを分け
て考える。と明言されていま
す。

昨今、主体性が求められる
世の中で、自分が主体的に行
動するために、または組織を
管理する立場の方におすすめ
の一冊になっています。

■『頭のいい人が話す前に考え
ていること』

安達 裕哉 著

日々、私はどのように話し
たら、説明したら相手に伝わ
りやすいか、を事前に考えな
がら話をしています。

この本はこのような悩みの助
けになる内容を記載してくれ
ています。

①すぐ言わず、いったん立ち止
まる。
②感情で反応せず、落ち着い
てから話す。
③相手がどう受け取るかを考
える。

④自分の言いたいことより「相
手にどう伝わるか」を重視。
⑤まず相手の話をちゃんと聞
く。

⑥聞くことで本当に必要な答
えが見えてくる。

⑦話す内容を整理する。

⑧ポイントを一つに絞る・構造
化してから話す。

⑨質問することで本質を理解
する。

⑩相手の意図や背景を正しく
つかむ。

以上、三冊を紹介させてい
ただきました。機会があれば
ぜひ読んでいただけましたら
幸いです。

おすすめされた本

理科 横田 萌

私が本を読みなくなる時は、周りの人に本を借りたときです。自分を知ってくれている人にすすめられると、その理由を考えながら読むので、より楽しくなります。そして、本を返すときに感想を伝え合

うと盛り上がります。共感できたり、違う受け取り方に気が付いたりして、本を読む楽しさが二倍になります。

そこで今回は、私がおすすめされた本の中から、自分の気持ちや大切にしたいことを見つけ直せる本を紹介します。

■『アルケミスト』

夢を旅した少年

パウロ コエリヨ 著

山川紘矢・山川亜希子 訳

あなたには夢や目標がありますか？「本当はやりたいことがあるのに、周りの目が気

になって踏み出せない」という経験はないでしょうか。

この本は、そんな自分に一歩踏み出す勇気をくれる物語です。主人公の姿を通して、読んだ人が自分の夢に向かう気持ちを後押ししてくれると思います、選びました。

印象に残った内容

・結局、人は自分の運命より、他人がどう思うかという方がもっと大切になってしまうのだ。不思議な力が、自分の運命を実現することは不可能だと、彼らに思い込ませるのだ。
・お前の心に耳を傾けるのだ。心はすべてを知っている。



■『母ちゃんのフラフープ』

田村淳 著

突然ですが、もし今日死ん

でしようとしたら、後悔することがありますか？あなたにとって「大切な人」や「大切なこと」は何でしょうか。

この本は、芸人の田村淳さんが母の死と向き合いながら、生き方や家族との関わり方を記したノンフィクションです。

著者へのインタビュー抜粋

・母ちゃんががんになったことは残念だったけれど、がんがわかってからの家族とのコミュニケーションは宝になっているんですね。(病気など)何もなくても、その宝に早く気がついてほしい。この本を読むことが、当たり前にある家族のなかに、かけがえのない日常があるということを深く考えるきっかけになればいいなと思っています。

本の後半では、著者が大学院で「死」について研究した内容や、日常的に遺書を書くサービスを立ち上げた経緯も

紹介されています。この本を読むと、遺書に対する考え方が大きく変わると思います。

印象に残った内容

・本当に自分にとって大切なこと、必要なこと、必要ではないことなどが、明確に色濃くわかってきた。遺書を書くという行為は、こんなにも深いものだと思った。



■『みえるとかみえないとか』

ヨシタケシンスケ 著

「自分と他人は違う」という当たり前のことを、宇宙人(＝他人)とのやり取りを通して気付かせてくれる絵本です。宇宙人が現実世界の誰を表しているのかにも注目しながら読んでみてください。

印象に残った内容

・宇宙飛行士のぼくが降り立ったのは、なんと目が3つあるひとの星。普通にしているだけなのに、「後ろが見えないなんてかわいそう」とか「後ろが見えないのに歩けるなんてすごい」とか言われて、なんか変な感じ。



2冊目、3冊目は2年5組の教室の本棚にあります。貸すこともできるので、この機会にぜひどうぞ。感想を話してくれたら嬉しいです。

図書委員による

おすすめの本紹介

一年三組

井上 愛絢・上田 心

『グッバイ宣言』

三月みどり 著

Chinozo 原作・監修



皆さんはChinozo さんが作られた「グッバイ宣言」という曲を知っていますか？

私たちが紹介する本は、「グッバイ宣言」という曲を小説化した「グッバイ宣言」です。人間関係が苦手で無難を好む桐谷翔と、学校一の問題児であり天真爛漫な七瀬レナ。部活ややりたいことのために最低限の行動しかしなかった桐谷が七瀬と出会い、日常や文化祭を通して引きこもりから変わ

つていくストーリーです。

少しずつ変わっていく姿やクラスメイトとの衝突がありながらも和解して助け合うところが私たちの日常に近く読みやすい本です。

自身の夢を再確認し、何ができるのかを必死に考える姿や一心に夢を追いかける姿を見るができます。正反對の二人が出会い惹かれあつていく、そんな青春と夢を題材にしたこの本に少し興味が湧いてきませんか？ 本当の自分自身と向き合い、うわべだけの昨日にサヨナラを宣言し、少しだけ前を向けるような希望と勇気を与えてくれます。

もし、希望と勇気が必要なら、少しこの本の日常を覗いてみてくださいね。



一年四組

井上 陽葵・田中小夏

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』

汐見夏衛 著



この本は、心に傷を抱えた高校生の丹羽茜と深川青磁が出会い、少しずつ自分自身と向き合っていく物語です。周囲に合わせて明るく振る舞う丹羽茜と、色覚に悩み孤独を抱える深川青磁は、ともに「本当の自分」を隠して生きています。それぞれ違う悩みを抱えた二人が出会い、言葉を交わし、ともに時間を重ねていくことで、無理に自分を変えるのではなく、弱さを持ったまま前に進んでいいのだと気づいていきます。この物語は、大きな事件が起こるわけではありませんが、

登場人物一人ひとりの心の変化が丁寧に描かれており、自然と二人の気持ちに寄り添うことができます。

特に印象的だったのは、「好きなものの見え方が違っても、感じ方は同じかもしれない」というメッセージです。青磁の色の世界を通して、人それぞれ物事の見え方や感じ方が違うということ、そしてその違いを否定せず受け入れていることの大切さが伝わってきました。また、茜が自分の気持ちを押し殺してしまう姿からは、誰かに合わせることで自分を守ろうとする苦しさも感じられました。この物語は、恋愛小説でありながら、自分自身と向き合う大切さを教えてくれます。人との違いや自分らしさに悩む人の心に静かに寄り添ってくれる本で、読み終えた後には、少し前向きな気持ちになれる作品です。ぜひ、読んでみてください。

一年五組

須原 愛莉・中内 悠陽

『命の燃やし方』

鈴木 大飛（コムドットやまと） 著



『命の燃やし方』は、コムドットやまとさんが自分の人生・覚悟・本音を真正面からつづった一冊です。Youtuber として成功している姿だけでなく、その裏にある葛藤や不安、挫折、そして「それでも自分の信じた道を突き進む理由」が正直な言葉で書かれています。周りの目を気にして挑戦できないとき、自分のやりたいことがわからなくなったとき、この本は「それでも一歩踏み出していんだ」と背中を押してくれそうです。特別な才能があるから成功しただけでなく、命を削る



ほど本気で向きあつてきたから今がある、というメッセージが強く伝わってきました。夢がある人はもちろん、夢がまだ見つからない人や今の自分に自信が持てない人にも読んでほしい一冊です。読み終えた後、「自分がこの命をどう燃やしていきたいのか」を自然と考えさせられる、本当に心に残る本だと思います。

一年六組

長谷川 温大・吉田虎太郎

『下半身入門』

ジェームズ・ドーン 著

藤堂嘉章 訳



この書名を見て3秒ほど見つめてしまった人にはぜひこの文章を最後まで読んでほしい。

今回紹介する本は主に男子に向けて(女子でも構わない)おすすめしたい本だ。最近ぐんぐん成長してきたあなたは体についての興味や疑問が一気に増えてきたと思う。この本はあなたが普段妄想していることや下半身についての疑問、また気になる人との付き合い方など、ディープな性教育について教えてくれる。しかも女性のリアルな意見も紹介されている。作者は僕達若者に性の

正しい知識を身に付けてほしいと思っている。こう書くと固く聞こえるが、要はあなたが興味津々なポルノ動画から性の知識を得ると、どうなるのかということだ。本書曰く「みんな一度くらいはスーパーヒーローが空を飛ぶのを見たことがあると思う。しかしその後自分も空を飛べるかを確かめようと10mの高さから飛び降りたことはないだろう。同じように学校の性教育ではどのようにに赤ちゃんができるかについては教えるが実際に子供を作る方法についてはポルノ動画ほど露骨に扱うことはない。すると私たちには知識の空白ができてしまう。」この本はそれを埋める手伝いをしてくれる。さらに下半身入門といっても今言ったこと以外にジェンダー(男性であることや女性であることがどういうことなのか)についてや性交渉と愛の関係性、性交渉時の女性の本音、

よい彼氏とはなんなのかなどなどが書かれている。作者はイギリス人なので日本人ぽくない直接的な表現と変なイラストのおかげで読んでいる間にも笑いがこみあげてくる。ここまで読んでくれてありがとう。この後、「下半身入門」を読んでもくれたらうれしいです。

※この本は西脇、明石などの図書館に所蔵されています。



二年一組

小林咲羽 竹村明莉

『カラフル』

森 絵都 著



私たちが紹介する本は、『カラフル』です。一度死んだ「ぼく」は、天使のプラプラに「おめでとうございます、抽選にあたりました!」と言われ、「前世の過ちを償う」ために下界で誰かの体に移り移つて過ごす「ホームステイの修行」をおこなうこととなる。「ぼく」の魂は「小林真」という中学3年生の少年に乗り移り、「修行」が始まった。不良少年のせいで重傷を負い自宅で療養していた真をクラスメイトの女子生徒が見舞いに来るが、「ぼく」はわざと露悪的な態度を見せて追い返した。回復後、「ぼく」は学校で心

読んでみてください。

して運べる。小さな体で大きな

なり、想像力が広がります。

心が温かくなります。

深いところもあります。

「英国庭園の謎」では、西宮市



の公園や英国式庭園がある豪

邸が登場します。このシリーズ

を簡単に説明すると、火村は

有栖川を名字から「アリス」と

呼び助手にしている、有栖川は

火村を「臨床犯罪学者」と名付

け、優秀な研究者であり、探

偵と認めていて、物語は有栖川

の一人称視点で話が進みます。

本のタイトルでもあり話の一つ

でもある「英国庭園の謎」は、

ある日、大阪府和泉市のはず

れの泉北の丘陵地の裾にある

豪邸で、資産家の緑川隼人氏

が死体として発見されるところ

から事件がはじまります。

これを有栖川と火村が解決し

ていくのですが、この事件をど

うやって解決していくかやこの

事件の犯人は本を読んで確認

してみてください。

本格推理小説でありながら

一つ一つの話が読みやすかつた

り、キャラクターの性格やテン

ポのいい会話が面白いのでぜひ

一度読んでみてください。

二年四組

遠藤 暖斗・元井 しほり

『リーチ先生』

原田マハ 著



『リーチ先生』は、原田マハ

んが書いた一冊の小説です。こ

の作品は実在のイギリス人陶

芸家バーナード・リーチと、架

空の陶工親子との交流を描い

た小説です。1954年、リー

チ先生は、大分の焼き物、小

鹿田焼を学ぶため、大分県の

小鹿田を訪ねることになった。

リーチ先生を迎え入れるため、

県からリーチ先生の世話係を

命じられた高市は、リーチ先

生と交流を深める。高市は亡

き父、亀乃介がかつてリーチ

先生に関わっていたことを知り

ます。これは現在の話です。

そして1909年、芸術に憧

れる高市の父、亀乃介の過去

の話につながります。来日して

いたリーチと出会い、弟子入り

を申し出るころから始まり

ます。弟子となった亀乃介は、

リーチと共に、陶芸を学ぶた

め、北京を周り、ついにイギリ

スのセント・アイヴスで濱田庄

司という陶芸家と共に「リー

チ工房」を設立し、イギリスに

東洋の陶芸文化を広める重要

な役割を果たします。リーチ

はこのことを高市に話し、高市

は芸術とは何なのか、師とは、

父とリーチはどんなことをし

てきたのかという真実を知り

ます。

この作品を読んで、この話は、

過去が作った亡き父と子の物

語だと思いました。最初は現

在から始まり、そのあとの、亡

き父とリーチ先生の2人の物

語が細かく書かれており、

色々な人物の夢と作陶とは何

かを知ることができる小説で

す。

二年五組

片岡 麗・杉本 乃々

『あの花が咲く丘で、君とま

た出会えたら。』

汐見夏衛 著



私たちがおすすめをする本

は『あの花が咲く丘で、君とま

た出会えたら。』です。この本

は小説になっています。あらず

じは、八十年前の一九四五年

の第二次世界大戦末期の日本

にタイムスリップをした現代の

女子中学生の主人公が特攻隊

員の青年と出会う切ない恋が

描かれています。

この作品をおすすめしたいと

思う理由は、時代を超えて出

会うことのないはずだった人た

ちが出会い、それぞれの思いか

ら「今」の自分に関係する部分

があると思ったからです。物語

は、戦争の話というもあり重

い場面は必ずありますがただ

ただ重だけの物語ではありません。

登場人物たちがお互

いに考えたり支えあい一生懸

命に毎日生きようとしている

ことによって元気を与えてくれ

たり、希望などを同時に伝え

てくれます。さらに、主人公

が現代に戻った時に気づくこ

とができる当たり前の大切さ

ということとは私たちの普段の

生活でも実感したり、関係が

あることだと思います。

物語は涙なしでは読めません

が、その分「今」につながって

いるということだと思います。感

動と切なさがある恋愛と戦争

という忘れてはいけないことが

共に描かれているため世代を

問わずに幅広く読むことができ

ると思います。今を生きても

るこのすごさやありがたさを

感じることができるので改め

てたくさんの人に読んでみてほ

しいと思います。この本をおすめ

します。

二年六組

杉山 真奈・藤原 心菜

『君の臍臓を食べたい』

住野よる 著



この本は、ある高校生の「僕」と、同じクラスの山内桜良との特別な時間を描いた作品です。あるきっかけから「僕」は、桜良が「臍臓の病気で長く生きられない」という秘密の日記を見つけてしまいます。それから、二人は少しずつ距離を縮め、一緒に過ごす時間が増えていきます。二人の性格は正反対で、人との関わりを避けがちな「僕」と明るくて自由な桜良。そんな二人がお互いに影響を与えながら成長していく姿が、この作品の大きな魅力です。物語は切ないテーマを扱っていますが、ただ悲しい物語だけではなく、「人と関わることの大切さ」や「生きる意味」を静かに問いかけています。桜良のまつすぐで前向きな言葉は読んだ後も心に残り、日常の景色までも少し違って見えるような気がします。



この本を読んで、読み進めていくほど二人の関係が愛おしくなり、最後には胸が締め付けられるような気持ちになりました。特に、「僕」が少しずつ変化していく姿は共感できる部分が多かったです。そして、桜良の明るさの裏にある強さに気づいたとき、ただ青春小説ではなく、「命と向き合う物語」だと感じられます。読み終わったあと、「今の時間をもっと大切にしたい」と思わせてくれる一冊です。ぜひ読んでみてください。

二年七組

釈迦堂 裕希・山中 太陽

『空飛ぶタイヤ』

池井戸 潤 著



ある日突然、思いもよらない事故の容疑者に仕立て上げられ、信じていたものが一瞬で崩れ落ちるとしたら、あなたはどうしますか。

トラックの脱輪事故で母子が死傷し、整備不良を疑われた運送会社社長。真面目に働いてきただけに、世間からは「おまえのせいだ」と責められる。会社の信用は地に落ち、倒産寸前まで追い込まれます。それでも社長は社員と家族のために真実を求めて動き出す。自らの仕事に誇りを持つ社長はトラックの製造元である巨大企業に疑いの目を向けます。けれど大企業の壁は高く、世

の中は冷たかった。

この物語は会社を守るために頑張る社長だけでなく、メーカー、銀行、マスコミといった多方面の登場人物が動き出し、企業の不正を暴くサスペンス性と、人間の弱さ・信念・正義感を描くヒューマンドラマが見所です。

読んでいて「不条理」や「怒り」を感じる部分がありますが、同時に社長のあきらめない姿勢に勇気をもらえます。単に事件の真相を暴くだけでなく「あなたはその立場でなにかできるのか」をも問いかけてきます。正義とは時に孤独で苦しい道を歩むことなのかもしれません。しかし、信念を貫こうとし泥臭く抗う人間の姿は読者に確かな希望を灯します。組織に属する人も、個人事業主も、そしてこれから社会に出る人も、誰もが無関係ではられない物語です。

「自分も信じるものを貫き行動したい」そう思わせてくる作品です。ぜひ読んでみてください。

〈編集後記〉

矢野 聖実

図書館報61号をご覧いただき、ありがとうございます。

今回の図書館報では校長先生を筆頭に、四人の先生方に寄稿していただきました。また、各クラスの図書委員からおすすめの本を紹介してもらいました。いずれの本もとても興味深い本ですので、気になった本を図書室や図書館で手に取ってみてください。

本との出会いは一生の宝物です。宝物を探しにぜひ図書室に足を運んでみてください。

